

長岡京左京一条三坊六・十一町跡
発掘調査現地説明会資料



1988年12月11日
(財)京都市埋蔵文化財研究所

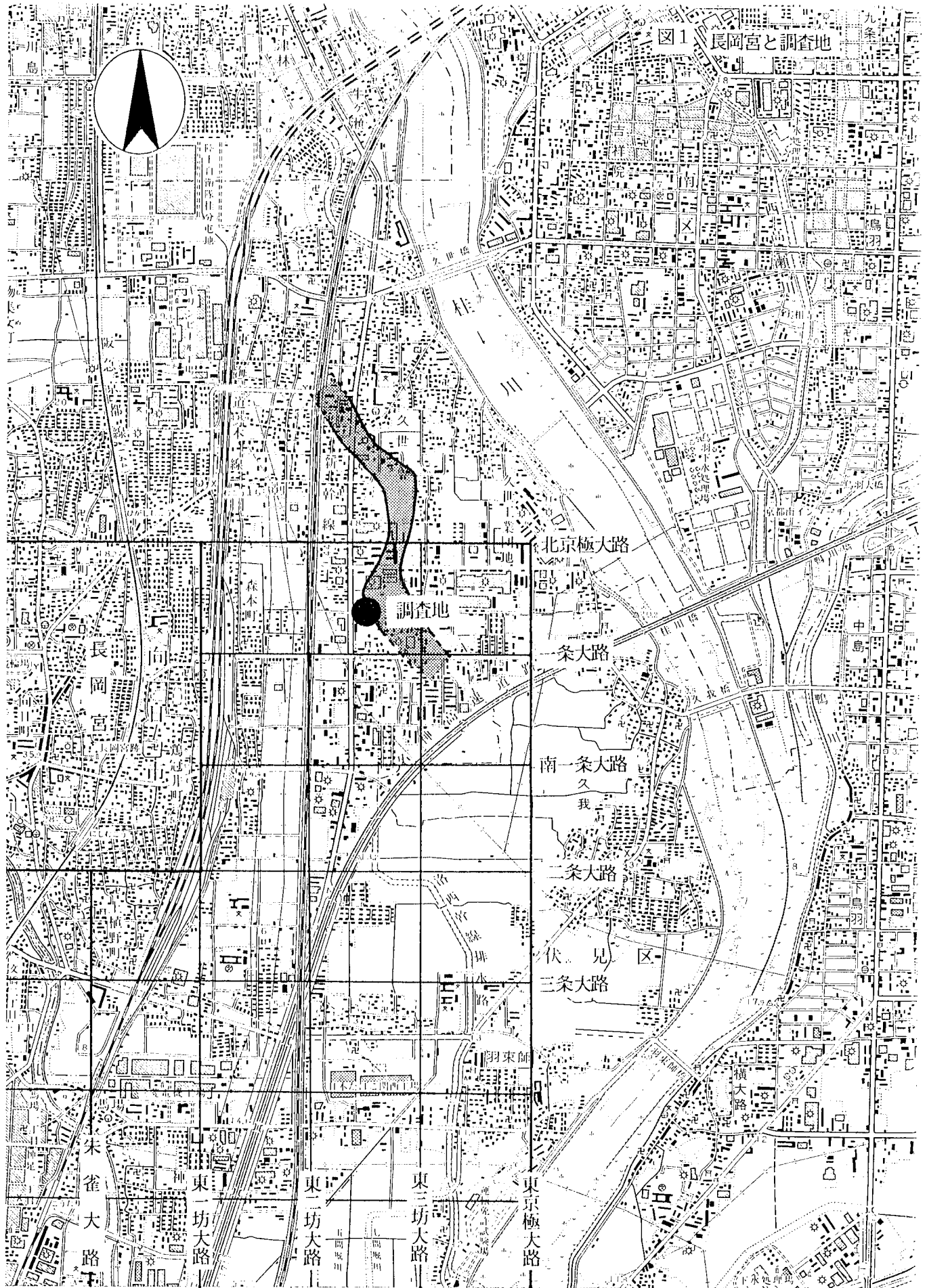


図1 長岡宮と調査地



調査地

北京極大路

一条大路

南一条大路

二条大路

三条大路

長岡宮

朱雀大路

東一坊大路

東二坊大路

東三坊大路

東京極大路

伏見区

横大路

下米堤河原

遺跡名 長岡京跡・戊亥遺跡
所在地 京都市南区東土川
調査期間 1988年9月1日～現在継続中
調査面積 2600㎡
調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

発掘調査中の地点は長岡京の左京一条三坊六町・十一町に推定され、東三坊坊間小路が調査地の東部を走り、京の北東部にあたる。また、弥生時代から古墳時代の集落跡である戊亥遺跡の範囲に含まれている。

対象地の試掘で弥生時代から古墳時代の流路跡を検出したため、関係者と協議のうえ発掘調査を実施した。

調査の結果、弥生時代から中世までの複合遺跡であることが判明し、東部には継続する自然流路が、西部の陸部には建物跡、溝など各時代の遺構を多数検出した。

なお、この調査は長岡京左京第203次調査にあたる。

2 調査の主な成果

検出した遺構は、東部と西部に分かれ、西部の陸部からは各時代の集落に伴う遺構が検出でき、東部からは継続する第50号流路を検出した。

第50号流路の規模は、幅が15m以上で深さは3mを超える。堆積土は大きく4層に分れる。第1層は灰色泥砂層で、平安時代の堆積層である。第2層は暗灰色泥砂層で、長岡京時代の木簡・土器などの遺物を含む。第3層は暗灰色泥砂層と灰色砂層が互層に堆積する土層で、多量の斎串と飛鳥時代から奈良時代前半の遺物を少量含む。第4層は灰色砂礫層で、古墳時代の土器を含む。さらに下層に流路に堆積した砂礫層が続くが、現時点では掘り下げていない。

長岡京時代以前

(弥生時代後期～古墳時代前期) 陸部の南部に遺構が集中し、隅丸方形の竪穴住居跡2棟、溝多数、柱穴を確認している。

竪穴住居跡(第326号)は一辺6.0mの方形で、南辺中央部に貯蔵穴があり、完形の小型壺と砥石が出土した。

竪穴住居跡(第420号)は全体を検出できなかったが、東辺は5.0mで326号に比べ短い。

溝(第450号)は幅が1m前後で延長35m検出した。溝の堆積土から多量の弥生第5様式の土器が出土した。

流路(第500号)は調査地の北西部で検出した。溝の上部は長岡京時代に整地され、溝の上層堆積土層から古墳時代後期の土器が、下層からは古墳時代前期の土器・木製品が出土している。

流路(第430号)は調査地の南東部で西肩の一部を検出した。第50号流路によって切られている。

(飛鳥時代～奈良時代前半) 第50号流路は南部で、長岡京時代に比べ西肩が広がり、堆積土の暗灰色泥砂層と灰色砂層が互層に堆積する土層から、350点を超える多量の斎串が出土した。

長岡京時代

東部には流路があり、西部には3間×1間以上の南北棟の建物1棟、3間以上の柵列がある。

掘立柱建物跡（第341号）は東西方向1間で、南北方向3間以上の梁間となる。柱間は、桁行2.5m、梁間3.3mに復元できる。

柵列（第250号）は、柱穴を4基検出し、その柱間は2.2m等間であるが、西部への延長は確認できなかった。

長岡京時代の第50号流路は北から南流し、敷地内で南東に流れの方向を変えている。検出の規模は、幅15m以上、延長50mで、深さは1.0～1.6m。堆積土は泥砂層であった。

西肩の3箇所地点から木簡が多量に出土した。木簡を多量に出土した南部の第1地点の流路底は、他の地点に比べ深く、底部から人面墨描土器・和銅開珎など祭祀に用いられた遺物が出土した。

長岡京時代以降

（平安時代から中世）平安時代から中世にかけて、東部の第50号流路は沼状をしていた。西部の陸部からは柱穴、井戸、土壙、溝などを検出したが数が少ない。

3 出土遺物

出土遺物の大半は、第50号流路と、第500号流路・第430号流路出土の土器・木製品である。以下、調査途中なので主要なものに限って述べる。

第50号流路の長岡京時代の堆積層からは、200点を超える多量の木簡を中心とし、木製品・土師器・須恵器・瓦が出土した。

木簡・木製品の出土は、流路西肩口の3地点に集中し、流路の中央部からの出土は少ない。第1地点からは木簡とその削り屑が多量に出土したが、土器類は極めて少ない。第2地点からは、少量の木簡と多量の箸を中心とする木製品、粟、茄子などの食物の種子とが出土した。第3地点からは土師器・須恵器などの土器類、箸などの木製品に混じって、先端が焼けたり、半割された木簡が出土した。

木簡は3地点とも完形のもの少なく、先端が焼けたり、二次的に半割したものが多く。また、木簡やその削り屑をかためて肩口から廃棄した状況がうかがえる。

現在読めた木簡には、「督曹司」「近衛府」「兵衛府」「太政官」「口務省」などの役所名、「酒人内親王」「神王」「藤原岡継」「守山王」「石川家守」「紀朝臣」「板茂千依」「卜部清成」「矢作広千麻呂」「乙成女」などの人名、「御薪」「樽」「長押」などの物品名がある。

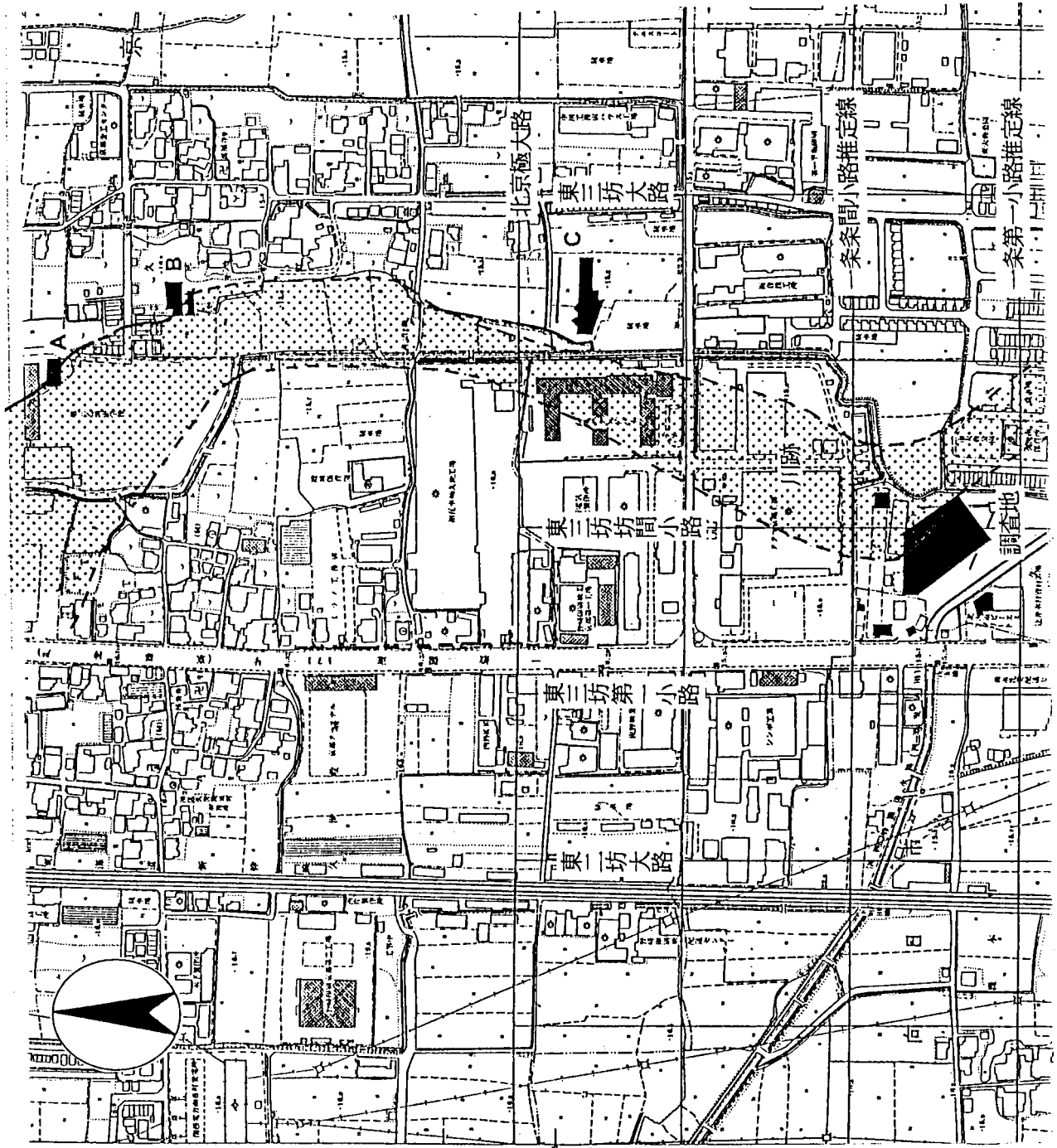
他に第50号流路出土の主要な遺物には、木製品では人形・斎串・桧扇・櫛・箸・篋・挽物の皿・漆器蓋。土器では人面墨描土器（壺・皿）、土師器杯・皿・椀・甕、須恵器杯・皿・壺・甕。金属製品では鉄鏃・刀子、貨銭には和同開珎がある。

4 まとめ

調査の結果、対象地は河川と居住空間に分かれることが判明した。東部の流路の成立時期は、今後の掘り下げで時期を確定する必要があるが、古墳時代に遡ることは確実に弥生時代以前に遡る可能性もある。陸部には弥生時代から中世の各時代の遺構がある。

長岡京時代の遺構は建物2棟・流路1条と数は少ないが、流路からは多量の木簡とその削り屑が出土し注目される。第1地点からは木簡とその削り屑が投棄された状態で出土し、点数では削り屑が多い。

遺跡の性格は、多量の木簡とその削り屑の整理を待たねばならないが、東部に大規模な流路があり、材木関係の木簡が多いこと、多様な役所名・人名などから長岡京の造営に伴う材木の陸揚げ地や物資の集積場と考えられる。付近に材木の収納などの事務を掌る役所の存在が推定される。



- A: 川跡東肩を検出
- B: 川跡東肩を検出
- C: 古墳時代住居跡多数検出

図2
川跡推定図と調査地

图4 SD50 主要木简·木製品出土位置图

(4m方眼)

